

全国学力・学習状況調査の結果について

4月に6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果が出ましたのでお伝えします。

国語・算数・理科ともに、正答率が全国平均を上回っていました。

全国平均より大きく正答率が高かった設問は以下の通りです（数字は全国正答率との比較です）。

正答率	国語(%)	算数(%)	理科(%)
本校	78	70	68
全国との差	+11.2	+12	+10.9
全国平均	66.8	58.0	57.1
神奈川県	66	59	57

〈国語〉

- ・「話すこと聞くこと」において「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる」が12.5ポイント高い。
- ・「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」が15.3ポイント高い。
- ・「読むこと」における「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる」が18.7ポイント高い。

〈算数〉

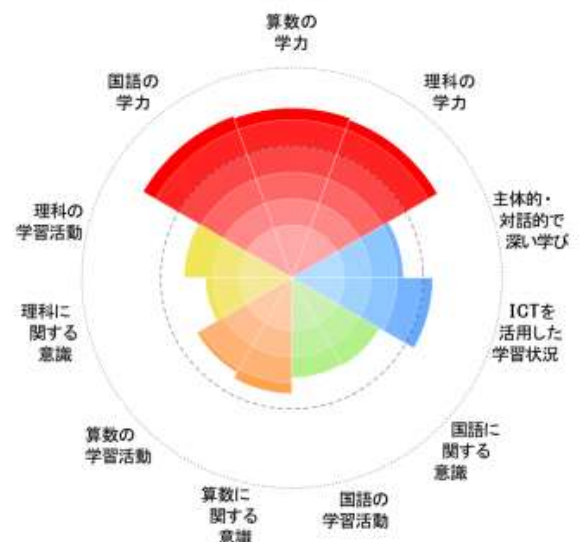
- ・「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる」が15.8ポイント高い。
- ・『「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる』が22.5ポイント高い。
- ・「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」が20.3ポイント高い。

〈理科〉

- ・「電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」が19.1ポイント高い。
- ・「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる」が22.2ポイント高い。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕

(全国基準)



<生活・学習意識調査>

生活・学習意識調査の結果からは、子どもたちに生活習慣がしっかりと身につけていることや自己肯定感を持って友達とよくかわり、日々に幸せを感じ、充実した日々を過ごしていることが見て取れます。また、ひとり一台の ICT 機器を他の文房具と同じように日常的に活用し、情報活用能力の基盤の上で学習に取り組んでいることもわかりました（※1）。これらも、各教科の正答率が平均を上回る結果となったことにつながる一つの要因と考えられます。

また、自らの考えをまとめて他者に工夫して伝えることや、学んだことを他の学習や生活に生かすこと、自分なりに考えて課題解決に向けて取り組むこと等について課題となっていることもわかりました（※2）。

各教科の調査では、全国の正答率を大きく上回っているものもありました。また、全体的に見ても全国平均よりも上回っている設問がほとんどでした。しかしながら、自発的・積極的に活動したり、前向きに物事を捉えたりすることが少ない状況も見えてきました。自分の活動に自信をもって、学び方を調節したり自ら課題設定や選択をしたりする場面の中で、持っている力を発揮できるよう、今後の学習活動を充実させていきます。

（※1）「している」「当てはまる」「よくある」「ほぼ毎日、複数の授業で使用」と、最も肯定的な回答を選んだ児童の割合

- ・『朝食を毎日食べていますか』⇒88.6 ポイント
- ・『自分にはよいところがあると思いますか』⇒全国平均より 11.3 ポイント高い
- ・『普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか』⇒全国平均より 14 ポイント高い
- ・『PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか』⇒全国平均より 52.6 ポイント高い

（※2）「できている」「当てはまる」と、最も肯定的な回答を選んだ児童の割合

- ・『5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか』
⇒全国平均よりも 11.9 ポイント低い。
- ・『5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか』
⇒全国平均よりも 13 ポイント低い。
- ・『学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか』
⇒全国平均よりも 12.5 ポイント低い。
- ・『授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか』
⇒全国平均よりも 18.4 ポイント低い。